

日誌課

陸軍省日誌明治七年第二十四號

○三月十日

御沙汰書寫

叙從六位

叙正七位

同

同

同

同

同

同

木村 漸

津田正芳

本庄繼由

友田美喬

駒井勝仲

川崎宗則

安住喜忠

大谷貞教

陸軍省

0383

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

遠	山	村	都	松	齋	熊	林	福	矢	北	原
藤	内	井	築	村	藤	野	直	原	上	楯	正
啓	通	寛	正	延	時	章	矢	政	義	利	忠
	義	温	順	勝	之	太		義	芳	盛	

日 誌	達 書 寫	同	同	同	同	同	同	同	同		
		同	同	同	同	同	同	同	同		
		同	同	同	同	同	同	同	同		
		同	同	同	同	同	同	同	同		
		同	同	同	同	同	同	同	同		
		同	同	同	同	同	同	同	同		
		同	同	同	同	同	同	同	同		
		同	同	同	同	同	同	同	同		
		任 陸 軍 少 尉	任 陸 軍 中 尉	同	同	同	同	同	同		
		陸 軍 曹 長	陸 軍 少 尉	同	同	同	同	同	同		
		鹽 屋 信 好	長 志 野 銈 大 郎	三 上 宣 之	上 野 忠 恕	岩 崎 之 紀	谷 衛 久	長 澤 貞 徽	羽 仁 政 行	粟 飯 原 常 世	福 田 繼 之

陸軍省

御用有之出京被 仰付 陸軍少佐 葛城義方

依願免出仕 遣兵司九等出仕 河合清明

名古屋鎮臺ヨリ伺書寫

別紙之通當臺在勤裁判大主理井上義行ヨリ伺出候
間何分ノ御指令有之度此段相伺候也 二月廿日
別紙

第一條

明治六年十二月四日陸軍省日誌第五十六號ニ記
載有之陸軍裁判所ヨリ伺出相成候贓物沽計ノ方
法ハ司法省ノ定例ニ倣ヒ預テ評價人定置度云々

同濟之上ハ當臺ニ於テモ同様評價人相定置度然
 レモ沽計ハ依テ以テ罪ノ輕重スル所且各種百出
 ノ贓品之ヲ一々預定ノ評人ニ委レ瑣々ノ一物ト
 雖モ容易ニ其價ヲ評セシムルハ恐クハ其當ヲ不
 得哉ニ相考候右ハ如何ノ職業ノ者ニシテ可然哉
 且處分ノ儀詳悉御指令被下度候

第二條

本分營ノ稱呼既ニ被廢候上ハ罪犯處置ノ條例ニ
 於テモ本分營ノ文字ハ的當ノ字面ニ御改メ相成
 且同條例中當時ト相抵牾スル條件ハ現地書面ト
 比較御改正無之テハ實地上差支ノ廉有之候様相
 考候抑條例中當時分營一大隊ヲ置者ハ云々ノ條

ノ如キ則分營ニ與フル所ノ權限ニシテ尤至要ノ
 一節トス故ニ分營ノ稱御廢相成候上ハ隨テ御改
 正無之候テハ譬ヘハ金澤營所ノ如キハ其罪犯處
 置ノ權限暗ニ此條ニ依ルヘキ者ノ如ト雖モ既ニ
 其名改マレハ其實亦差異ナキ能ハス而シテ罪犯
 處置ノ權限ハ條例中尤重シトスル所然ルニ曖昧
 此ニ依テ處斷スル恐クハ其當ヲ得サル儀ニハ無
 之候哉

第三條

右條例中第三條同隊ニ在リ既ニ停住ヲ命シタル
 云々ノ條例ニ司令長官ニ申告スヘシ就テ其罪狀
 ヲ辨審シト有之右ハ長官ニ就テ質問辨審スルノ

儀ニ候哉就テノ字所指了解難致候

第四條

文官武官ト地位比較ノ儀少尉以上等級既ニ一階
ヲ進メ且奏任ニ班スト雖モ少尉試補ノ判任且十
等ニシテ猶且將校ノ列ニ在リ然ラハ則文官白洲
ニ位置及糺彈ノ待遇等ハ裁判所ノ舊例ニ仍リ十
等以上將校ヲ以テ之ヲ待シ十一等以下下士ヲ以
テ之ヲ遇シ何ノ支吾アルヲ見スト雖モ獨リ罪犯
決罰ノ際ニ至リ之ヲ以テ準トナシ難キ者アルニ
似タリ假令ハ放逐ノ如キ管内服役ノ者ヲ管外ニ
放逐スルノ刑名也故ニ下士ニアツヘクシテ文官
十一等以下ニ當ヘカラス是レ將校下士ノ字面正

シク文官ニ下スヘキ者ニ非ルヲ以テノ故也然リ
 而シテ十等以上ニ當ルニ將校ノ正刑ヲ以テシ以
 下ニ擬スルニ下士ノ正刑ヲ以テスル者本省日誌
 ニ於テ往々之ヲ見ル曰退職曰降等ノ如キ是ナリ
 此ニ由テ之ヲ見レハ將校下士ノ正刑ヲ以テ文官
 十等以上以下ニアツヘキ者ノ如シト雖_レ將校ニ
 在テハ徒及ヒ放逐等ノ刑名ナク下士ニ於テハ則
 之_レアリ是_レ將校下士ニシテ自_ラ此ノ如クナラ
 サルヘカラスト雖_レ文官十等以上以下ノ區別固
 ヨリ武官將校下士懸隔ノ如キニ非ス然ルニ其十
 等以上ニ當ヘカヲサル者_{徒放}逐ヲ以テ直ニ十一等
 以下ニ擬スルハ權衡或ハ其平ヲ不得カ如シ特

ニ其平ヲ得サルノミナラス事實亦行フヘカラサル者アリ即チ前陳スル所放逐ノ如キ者は也然ラハ則其支吾ナキ者ハ正刑ヲ以テ之ヲ處シ其支吾スル者ニ至リ獨リ正刑ヲ以テ處スヘカラサルカ是亦其當ヲ得サルニ似タリ且明治六年二月七日諸鎮へ御布告書ニ依テ案スルニ文官等級少尉相當以上ナル者其處置ノ權限鎮臺罪犯處置條例ニ依ルヘクンハ則其以下ナル者處置ノ權限ハ固ヨリ擬斷ノ準據等下士ニ比スヘキハ論ヲ待サルカ如シト雖レ之ヲ實地ニ考ヘ之ヲ刑律ニ正シテ亦竊ニ穩ナラサルヲ覺ヘ其理ノ如何及ヒ罪犯擬斷準據等何分疑團ヲ不免候

右何分之儀詳細御指令有之度此段相伺候也 二月六日
指令

伺之趣

第一條 評價人ヲ預定スルト否サルト及ヒ何等ノ職業人ヲ用ルトハ皆其土地ノ便宜ニ從ヒ可申事

第二條 所置條例中分營ト稱スルモノ既ニ改正ノ後ハ營所ト相心得可申事

第三條 就テノ字其事ニ就テト云ノ意ト可相心得事

第四條 文武官等十等以上ノ者ハ當分從前ノ通又文官十一等以下ニ該ルニ下士ノ正刑ヲ

實決シ難キ者或ハ放逐黜等ノ如キハ罪犯有
之節口供斷案相添可伺出候事

但其禁錮ニ該スル者ハ謹慎ニ換ヘ處斷可
致事

大阪鎮臺ヨリ届書寫

元高槻縣貫属士族並ニ元卒ノ者共九州邊逆徒暴舉
之趣傳聞仕

天朝之御用ニ相立度段大阪府へ申出候趣ヲ以テ同
府知參事ヨリ別紙寫之通常備兵員不足ノ節ハ可然
取計有之度旨申越候右ハ殊勝ノ儀ニ存候間爲御承
知申進置候也 三月四日〇別紙略之

元高槻縣貫屬士族並元卒人員

島上郡第二區高槻村住
上田部村住士族

須川竹次郎

外二百四十六人連印

同上元卒

小寺一廣

外九人連印

○三月十二日

御沙汰書寫

叙正七位

同

岡本重典

竹内正直

0394

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

一
七

新	石川	志摩	早川	山田	益田	河村	田原	大島	竹内	檜垣	黒岩
保	幸	如	正	積	照	幸	茂	久	眞	彦	直
功	安	壽	則	之	遠	祺	穂	直	彦	柏	教

9680

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

目録

沖原光孚	井關正方	松本謙吉	前田隆禮	小野崎通理	福知宜一	吉田諫三	武田信賢	松村春智	鍋木直大	長尾勝斌	管田直輝
------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------

一 目 録

同 同 同 同 同 同 同 同 同

依願免出仕

達書寫

十五等出仕

神山榮之進

棟方武敏
屬南介
豐田良作
祝朝章
金子忠至
津森秀實
小川長利
石川敬直
山脇貞良

上
志
八
三
言

日 誌

歴 年 表

裁判所申渡罰文

東京鎮臺第一聯隊第二大隊第二中隊
生兵 市原與吉

其方儀去二月四日飯倉五丁目ニ於テ酩酊ニ乘シ伊
太利亞國公使館附属カンポリヤンニ對シ粗暴之舉
動ニ及ヒ輕傷ヲ負セ候科ニ依リ徒刑一年申付ル

第十六大隊第二中隊炊事伍長森度顯心病ヲ發シ二
月廿七日營内賄所ニ於テ自刃致シ候段高松營所申
出之趣廣島鎮臺ヨリ届出

佛國人

ルイー

右語學教師トシテ明治七年三月一日ヨリ同八年三月一日迄兵學寮へ雇入之免狀相渡ス

○二月二十八日分

御沙汰書寫

叙從五位

正六位

高橋勝政

大阪鎮臺申渡罰文

砲兵第七大隊一番小隊二等馭者

長崎惟善

其方儀當二月十一日脱走同廿日自首スト雖也再度

九

九

日 誌
一
六
一
四
頁
目
録

脱走ニ及ヒ候科ニ依リ杖四十錮三十五日申付ル

砲兵第七大隊二番小隊一等馭者

佐々木光則

其方儀當二月廿日病院ニ於テ看病人所持金一圓盜取候科ニ依リ錮二十八日申付ル

○三月二日分

御沙汰書寫

任陸軍少尉

陸軍曹長

中島良寛